雑　感

㈲道南アグロ　日　浅　文　雄

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。昨年末，事務局の方から何でもよいから書いてほしいとの要請があり，テーマが無いくらい書きづらいことはないのですが，依頼者の困った顔が浮かんできて，しぶしぶペンを取りました。

最近のニュースで感じたことを一言。事件ひとつをとっても，凶悪かつ若者による動機が単純なものが増加しています。人を殺すことを何とも感じないのか，事故にしても人命を奪う大事故が続発しています。企業における不祥事，衣食住全てに報じられる偽装事件。食料の産地偽装に始まり，住宅までが耐震強度偽装に手抜き工事と企業のモラルはどこへ行ったのでしょう。資本主義の世とは言え，資本の論理で繰り返されるＭ＆Ａやマネーゲーム，強者の象徴のようにもてはやされるヒルズ族の横行，政官財の談合汚職，特殊法人の税金の無駄遣い・・・・・。あげればキリがありません。おまけに天候までが歴史を塗り変えるくらいに各地に猛威をふるっています。どうなってしまったのでしょう。果たしてこんな事でよいのでしょうか。とても不安を感じます。

そんな折，稲盛和夫氏が「西郷南州遺訓と我が経営」と題した記事を日経ビジネスに掲載されました。明治維新の立役者，軍人西郷隆盛がこんなにすばらしい道徳感あふれる言葉を残されていたのかと改めて知らされました。稲盛氏は昨今の世相の乱れは規則，規則と膨大なルールで対処できるものではない。本質は世のリーダーたちが寄って立つ「正しい哲学」が見失われてしまったこと，それこそが病巣の核だと記されています。金銭欲，出世欲，名誉欲，保身欲・・・ただ欲望のみが，現代のリーダーたちの価値観の大半を支配してしまったのではないかとおっしゃっています。混迷，激変，苦難の時代だからこそ，リーダーたるものにはきわめて高い見識と倫理観，道徳感が求められています。リーダーとして本質的には人間としてどうあるべきかを問い直すべき時ではないかと。西郷隆盛遺訓集から「敬天愛人」を始めとして数々の訓話を解説しつつ大人の道徳，倫理といえる言葉をしるされています。

全てが「なるほど」「そのとおり」「そうありたい」と感じ，心に響く言葉ばかりでした。氏は人がすばらしい人生を送るために心がけるべきことはなにかを簡潔に整理されました。それが「6つの精進」です。

1．誰にも負けない努力をする。
2．謙虚にして驕らず。
3．毎日の反省（利己の反省，利己の払拭）。
4．生きていることに感謝する（幸せを感じる心は，足るを知る心から生まれる）。
5．善行，利他行を積む。
6．感性的な悩みをしない。

そして,「人事を尽くして天命を待つ」だそうです。13週にわたって連載された記事でしたが，久しぶりでビジネス雑誌としてはめずらしく真っ先に目

が行きました。

いろんなことをあれこれと嘆いたり悩んだりせずに，氏の言葉を少しでも理解し，実践することが不安解決の道なのだと，年頭に当たり，ひとり感じ納得した次第です。そろそろ仲間たちが大量定年を迎える団塊世代のひとりの雑感とお笑いください。

（本原稿は2006年1月に頂戴しました。本誌編集部）

訂正とお詫び

AAS29 号に掲載の道南アグロ，日浅氏のお名前に誤りがございました。日浅氏のご氏名は日浅文男です。

訂正とお詫びを申し上げます。（AAS 編集担当）